

令和4年度 一学期終業式講話 「本当の真面目さ」

おはようございます。一学期が終わろうとしている今日、私から、皆さんに伝えたいことは3つです。

一つ目は、学年集会での先生方の話をしっかりと心に留めてこの夏休みを過ごしてほしいということです。生活においては同じ時間に起きるなど、心身のリズムを整えること。学習についても、計画を立て生活習慣の中に根付かせること。進路について、各学年でやるべきことをしっかりと実行しましょう。皆さんを心から応援している先生方のメッセージを心に刻み、大切にこの夏を過ごしてほしいと思います。

二つ目は、何か一つ心に決めたことに挑戦し、日々自分をふりかえり見つめてほしいということです。私は、2・3年生に向けて今学期の始業式で「思い」をもって生き、互いの思いを大切に応援し合う仲間であってほしいと話しました。1年生にも、入学式で、初志貫徹、自分でこうと決めた目標や目的をもってください、と話しました。人は心の底からこうしたい、そうなりたいと願う「思い」を持てば、自ずとそこに近づいて行くものです。そして思いは抱き続けられれば、いつか必ず実現するものです。思いは行動をつくり、行動は人をつくり、人生をつくりまします。大切なのはどのような思いを抱くかです。

6月末に校長メッセージとして皆さんに「正しい生き方なくして真の成功はありえない」という私の座右の銘を紹介し、多くの感想・意見をいただきましたが、自分の行動の指針となる思いや考えを見つめなおす機会となってくれたならうれしく思います。その意見の中に、正しいことは人によって違うし、欲をもつことも必要だと思うといった意見を書いてくれた人がいました。そのとおりです。人が何を正しいと考え、どのような意欲をもって生きるか、それはその人次第です。だからこそ、私たちは、本当になりたい自分や自分が本当にしたいことが何なのかをふりかえることが大切なのです。

三つめは、真面目力です。一般的には使われない言葉ですが、単なる真面目さとは違うという意味で、あえて、使わせていただきます。明治大学教授の斉藤孝さんに『牛のようにずんずん進め』という少し変わったタイトルの本があります。この本では、夏目漱石の人生論を牛のように進む「真面目力」として読み解いています。とにかく、わたしたちは馬のように早く走り、効率的に成果を手に入れたがりますが、漱石は、牛のように自分の足元を見つめ、わき目もふらず一步一步確実に前進する姿に本当の真面目さを見いだしています。漱石は、虞美人草という小説の中で、作中人物にこう言わせています。「真面目とはね、君、真剣勝負の意味だよ。」と。ただ言われたことをこなすだけの生真面目さとは違う、自分の課題をもって追求し、負けることも恐れないスケールの大きい真面目さを真剣勝負と言っているのだと思います。真の真面目さとは、単発的な行動ではなく、腹の底から挑戦したい何かを見い出し、腰を据えて挑み続けることです。ひとにどう思われるかや、人からどう見えるかといった次元ではなく、自分がそうすべきだと思ったこと実行する強さを身に付けることです。かっこわるくてもいい、笑われてもいい。「いいね」をもらえなくてもいい。人からどう見られるかばかり気にして、一步踏み出せないとしたらそれはまだ本当の真面目力にまで至っていないのだと思います。

以上、三つのことを話しました。健康に留意し、生活リズムを整え、一所懸命に何かに挑戦し、自分の行動をふりかえり、本当になりたい自分を見つめ、できるかできないか思い悩むのではなく、出来ると信じて努力する。結果を恐れず、牛のようにずんずん進み、真剣勝負できる力、真面目力を身に付けることができれば、それは皆さんの一生の宝になります。みなさんならできる、そう信じています。以上で、私の話を終わりにします。では、9月にまた、元気な皆さんと会えることを楽しみにしています。